

2022年度 自由科目

科目				学年						合計単位数	科目ナンバリング	頁
				1	2	3	4	5	6			
				単位数	単位数	単位数	単位数	単位数	単位数			
自由科目群	海外臨床実習コミュニケーション	演習	後期					0.5		0.5	13001	1
	USMLE受験準備コース（基礎編）	演習	通期		0.5					0.5	12002	2
	USMLE受験準備コース（応用編）	演習	通期				0.5			0.5	13003	
	地域医療リーダーズコース1	演習	後期	0.5						0.5	11004	5
	地域医療リーダーズコース2	演習	後期		0.5					0.5	12005	7
	地域医療リーダーズコース3	演習	後期			0.5				0.5	12006	9
	地域医療リーダーズコース4	演習	後期				0.5			0.5	12007	11
	地域医療リーダーズコース5	演習	後期					0.5		0.5	13008	14
	リサーチ・コース1	演習	通期	0.5						0.5	11009	16
	リサーチ・コース2	演習	通期		0.5					0.5	12010	19
	リサーチ・コース3	演習	通期			0.5				0.5	12011	22
	リサーチ・コース4	演習	通期				0.5			0.5	13012	25

年度	2022
授業コード	
科目名	海外臨床実習コミュニケーション
年度	2022年度
学年	5年（海外臨床実習生以外の受講可）
開講学期	後期
科目ナンバリング	13001
必修/選択	必修
授業形態	演習
単位数	0.5単位
時間数	
科目責任者	小島多香子（国際医学情報学分野）
科目担当者	小島多香子（国際医学情報学分野）・ポビエル ヘレナ明子（国際医学情報学分野）
実務経験のある教員等による授業科目（計上状況）	
授業の目的・概要	海外臨床実習に向け、日常英会話、医療英会話などのコミュニケーション力を強化し、現地の生活・実習マナーなど異文化理解を深め、多角的な視点を得ることを目標とする。▼また、派遣先の国が抱える社会問題や医療制度・事情などに関連した記事・論文等を読み、医療における社会的背景の知識を深める。▼講義は、アクティブラーニングを取り入れ、グループ別あるいはクラス全体でアクティビティ、ディスカッション、発表などを行う。▼また、海外臨床実習後の医学会発表に必要な基礎知識についての学習とトレーニングを行う。講義は対面とZoomで実施する。補講は予定していない。
授業の進め方と方法	
ICT活用	
予習時間	30分
予習内容	
復習時間	30分
復習内容	
評価の方法と内訳（%）	3分の2以上出席した者に対し、パフォーマンスおよび課題レポートにより評価する。
最終評価点	
合格点	
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	試験・レポートに対する質問はオフィスアワーやe自主自学で回答する。
履修上の注意等	
【医】 オフィスアワー→担当	
【医】 教科書	
【医】 参考書	
【医】 【第1回】 方式	対面・Zoom
【医】 【第1回】 授業内容	Orientation・Self-introduction
【医】 【第1回】 到達目標	英語で行う本質的な自己PRを知ることができる。
【医】 【第1回】 キーワード	
【医】 【第1回】 担当者	小島多香子
【医】 【第2回】 方式	対面・Zoom
【医】 【第2回】 授業内容	Overseas clerkship: purpose and goals
【医】 【第2回】 到達目標	派遣先での目標を明確にして、グローバル思考&行動力を身につけることができる。
【医】 【第2回】 キーワード	
【医】 【第2回】 担当者	小島多香子
【医】 【第3回】 方式	対面・Zoom
【医】 【第3回】 授業内容	Intercultural awareness and communication

【医】【第3回】到達目標	異文化理解と異文化適応について理解することができる。
【医】【第3回】キーワード	
【医】【第3回】担当者	小島多香子
【医】【第4回】方式	Differences in healthcare
【医】【第4回】授業内容	現地の医療制度や医療事情について知ることができる。
【医】【第4回】到達目標	
【医】【第4回】キーワード	
【医】【第4回】担当者	小島多香子
【医】【第5回】方式	
【医】【第5回】授業内容	Group activity (discussion, role-play)
【医】【第5回】到達目標	英語でのディスカッション・コミュニケーションを取ることができる。
【医】【第5回】キーワード	
【医】【第5回】担当者	ポピエル・ヘレナ明子
【医】【第6回】方式	
【医】【第6回】授業内容	Group activity (discussion, role-play)
【医】【第6回】到達目標	英語でのディスカッション・コミュニケーションを取ることができる。
【医】【第6回】キーワード	
【医】【第6回】担当者	小島多香子
【医】【第7回】方式	
【医】【第7回】授業内容	Group activity (discussion, role-play)
【医】【第7回】到達目標	英語でのディスカッション・コミュニケーションを取ることができる。
【医】【第7回】キーワード	
【医】【第7回】担当者	小島多香子
【医】【第8回】方式	
【医】【第8回】授業内容	How to prepare for an oral presentation
【医】【第8回】到達目標	口頭発表に必要なスキルを身につけることができる。
【医】【第8回】キーワード	
【医】【第8回】担当者	小島多香子

年度	2022
授業コード	
科目名	USMLE受験準備コース（基礎編）
年度	2022年度
学年	2・3年
開講学期	通期
科目ナンバリング	12002
必修/選択	選択
授業形態	演習
単位数	0.5単位
時間数	8
科目責任者	黒田雅彦（分子病理学）
科目担当者	・黒田雅彦（分子病理学）・山田侑子（分子病理学）・林美穂子（英語）・金蔵孝介（分子病理学）
実務経験のある教員等による授業科目（計上状況）	
授業の目的・概要	海外臨床実習に向け、日常英会話、医療英会話などのコミュニケーション力を強化し、現地の生活・実習マナーなど異文化理解を深め、多元的な視点を得ることを目標とする。▼講義は、オンデマンド配信を主体とする。▼USMLEに必要な医学英語表現の学習とトレーニングを行う。▼補講は予定していない。▼この講義への参加のみで受験突破は困難であるのは言うまでもないが、受験の動機付けや、勉強の仲間作り、勉強方法の共有化を理解することを目標とする。
【医】授業の到達目標_1	9・①
【医】ディプロマポリシーとの対応1	USMLE受験に関心を持ち、幅広い教養を身につけるべく積極的に行動できる。
【医】授業の到達目標_2	9・②
【医】ディプロマポリシーとの対応2	国際的視野を持った上で、海外留学に関心を持つことができる。
【医】授業の到達目標_3	9・③
【医】ディプロマポリシーとの対応3	一般的英語表現ならびに科学・医学の専門表現が理解できる。
【医】授業の到達目標_4	
授業の進め方と方法	USMLE STEP1の受験準備をする。 ▼受験者の体験談を聞き、必要な医学英語の復習をし、基礎の問題を解く。 ▼この講義への参加のみで受験突破は困難であるのは言うまでもないが、受験の動機付けや、勉強の仲間作り、勉強方法の共有化を理解することを目標とする。 ▼毎回、レポートを提出（講義内容のまとめ、講義の質問など）する。
ICT活用	
予習時間	30分
予習内容	
復習時間	30分
復習内容	
評価の方法と内訳（%）	3分の2以上出席したのに対し、積極性、理解度をもとに評価する。
最終評価点	
合格点	
筆記試験の形式	
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	レポートをチェックし、返却する。
履修上の注意等	2-5年で1回履修する。医学英語の課題内容以外は、基礎編・応用編いずれも同じである。
【医】オフィスアワー→担当	●分子病理学▼黒田 雅彦 主任教授▼東京医科大学 分子病理学分野 主任教授室▼03-3351-6141（内線234） kuroda@tokyo-med.ac.jp▼月-金 9:00-17:00▼山田 侑子 研究助教▼東京医科大学 分子病理学分野 第一研究室▼03-3351-6141（内線235） yamayu@tokyo-med.ac.jp▼月・水・木・金 9:00-16:00

【医】教科書	First aid for theUSMLE STEP1, Q&A for the USMLE STEP 1
【医】参考書	
【医】【第1回】方式	
【医】【第1回】授業内容	USMLEの動機付け
【医】【第1回】到達目標	USMLEについて知る
【医】【第1回】キーワード	1.USMLEの必要性▼2.USMLEの勉強方法▼3.日本の国家試験との相違点▼4.海軍病院とは
【医】【第1回】担当者	牛谷 優里亜、山田 侑子
【医】【第2回】方式	
【医】【第2回】授業内容	USMLEの勉強法
【医】【第2回】到達目標	USMLEについて知る
【医】【第2回】キーワード	1.USMLE受験までの流れ▼2.USMLEの勉強方法▼3.USMLE受験の実際
【医】【第2回】担当者	鶴井 敏光、黒田 雅彦
【医】【第3回】方式	
【医】【第3回】授業内容	米国研修医の生活
【医】【第3回】到達目標	USMLEについて知る
【医】【第3回】キーワード	1.USMLE合格後、レジデントになるまでの過程▼2.米国研修医の生活▼3.日本の医療界との違い
【医】【第3回】担当者	陳 佳奈、山田 侑子
【医】【第4回】方式	米国における医学
【医】【第4回】授業内容	医療人としてグローバルに活躍するための資質を学ぶ
【医】【第4回】到達目標	米国における臨床研究
【医】【第4回】キーワード	
【医】【第4回】担当者	小川真一郎、黒田 雅彦
【医】【第5回】方式	
【医】【第5回】授業内容	留学の意義 1
【医】【第5回】到達目標	医療人としてグローバルに活躍するための資質を学ぶ
【医】【第5回】キーワード	米国における基礎研究
【医】【第5回】担当者	金蔵 孝介
【医】【第6回】方式	
【医】【第6回】授業内容	留学の意義 2
【医】【第6回】到達目標	医療人としてグローバルに活躍するための資質を学ぶ
【医】【第6回】キーワード	医療人としての英語力
【医】【第6回】担当者	寺田直弘、黒田 雅彦
【医】【第7回】方式	
【医】【第7回】授業内容	医学英語（応用編）
【医】【第7回】到達目標	必要な医学英語の予習・復習をする
【医】【第7回】キーワード	医学英語の表現
【医】【第7回】担当者	林 美穂子
【医】【第8回】方式	
【医】【第8回】授業内容	
【医】【第8回】到達目標	USMLEの問題を解くことができる
【医】【第8回】キーワード	USMLEの問題に触れる
【医】【第8回】担当者	林 美穂子

年度	2022
授業コード	
科目名	地域医療リーダーズコース1
年度	2022年度
学年	1年
開講学期	後期
科目ナンバリング	11004
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	0.5 単位
時間数	
科目責任者	
科目担当者	野平知良
実務経験のある教員等による授業科目（計上状況）	
授業の目的・概要	将来、地域医療の先頭に立って地域の患者の健康に寄与できる人材を育成する。
【医】授業の到達目標_1	地域医療で要求される視点を説明できる
【医】ディプロマポリシーとの対応1	8.予防医学、保健・福祉を理解し、地域医療に貢献する能力を備えている。
【医】授業の到達目標_2	
【医】ディプロマポリシーとの対応2	
【医】授業の到達目標_3	
【医】ディプロマポリシーとの対応3	
【医】授業の到達目標_4	
【医】ディプロマポリシーとの対応4	
【医】授業の到達目標_5	
【医】ディプロマポリシーとの対応5	
【医】授業の到達目標_6	
【医】ディプロマポリシーとの対応6	
【医】授業の到達目標_7	
【医】ディプロマポリシーとの対応7	
【医】授業の到達目標_8	
【医】ディプロマポリシーとの対応8	
【医】授業の到達目標_9	
【医】ディプロマポリシーとの対応9	
【医】授業の到達目標_10	
【医】ディプロマポリシーとの対応10	
授業の進め方と方法	国内の地域医療の特徴を 全体講義、小グループ討議（SGD）を通して理解する。
ICT活用	e自主自学を利用した資料の提示とポートフォリオへのレポート掲示
予習時間	30～60分
予習内容	講義に向けた予習課題内容の検索・学習とレポート作成
復習時間	30～60分
復習内容	SGDの内容をまとめ、提出用レポートを作成しポートフォリオへ提出
評価の方法と内訳（%）	授業への出席（60%）とSGDの評価表（40%）
最終評価点	授業への参加状況（出席・SGDへの参加内容）を評価対象とする。
合格点	80%以上の出席が評価条件、評価表60点以上で単位認定とする。
筆記試験の形式	なし
再試験・対象者	評価表60点未満の者（最低点の条件なし）
再試験・実施時期	学年終了時の3月末日
再試験・範囲	レポート課題として提示

再試験・難易度	
再試験・方法	レポート提出
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	個別の面談およびポートフォリオ上での記述
履修上の注意等	
【医】 オフィスアワー>担当	野平知良（医学教育学分野）
【医】 教科書	指定なし
【医】 参考書	指定なし
【医】 【第1回】 方式	全体講義、SGD
【医】 【第1回】 授業内容	地域医療総論
【医】 【第1回】 到達目標	地域医療で要求される視点を説明出来る
【医】 【第1回】 キーワード	地域医療、医療圏
【医】 【第1回】 担当者	野平知良（医学教育学分野）
【医】 【第2回】 方式	セミナー参加
【医】 【第2回】 授業内容	地域でのディスカッション
【医】 【第2回】 到達目標	自らの地域の特性を説明出来る
【医】 【第2回】 キーワード	地域医療の現状
【医】 【第2回】 担当者	野平知良（医学教育学分野）
【医】 【第3回】 方式	セミナー参加
【医】 【第3回】 授業内容	地域でのディスカッション
【医】 【第3回】 到達目標	自らの地域の特性を説明出来る
【医】 【第3回】 キーワード	地域医療の現状
【医】 【第3回】 担当者	野平知良（医学教育学分野）
【医】 【第4回】 方式	SGD
【医】 【第4回】 授業内容	修学生の集い1
【医】 【第4回】 到達目標	自らの医療圏の特徴を説明出来る
【医】 【第4回】 キーワード	医療の地域特性
【医】 【第4回】 担当者	野平知良（医学教育学分野）
【医】 【第5回】 方式	SGD
【医】 【第5回】 授業内容	修学生の集い2
【医】 【第5回】 到達目標	自らの医療圏の特徴を説明出来る
【医】 【第5回】 キーワード	医療の地域特性
【医】 【第5回】 担当者	野平知良（医学教育学分野）
【医】 【第6回】 方式	セミナー参加
【医】 【第6回】 授業内容	修学生スプリングセミナー1
【医】 【第6回】 到達目標	自らの医療圏の問題点を説明出来る
【医】 【第6回】 キーワード	地域医療システム
【医】 【第6回】 担当者	野平知良（医学教育学分野）
【医】 【第7回】 方式	セミナー参加
【医】 【第7回】 授業内容	修学生スプリングセミナー2
【医】 【第7回】 到達目標	自らの医療圏の問題点を説明出来る
【医】 【第7回】 キーワード	地域医療システム
【医】 【第7回】 担当者	野平知良（医学教育学分野）
【医】 【第8回】 方式	SGD
【医】 【第8回】 授業内容	SGDによる地域医療の現状と問題点のまとめ
【医】 【第8回】 到達目標	自らの医療圏の医療事情を説明出来る
【医】 【第8回】 キーワード	地域社会と地域医療
【医】 【第8回】 担当者	野平知良（医学教育学分野）

年度	2022
授業コード	
科目名	地域医療リーダーズコース2
年度	2022年度
学年	2年
開講学期	後期
科目ナンバリング	12005
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	0.5単位
時間数	
科目責任者	
科目担当者	野平知良
実務経験のある教員等による授業科目（計上状況）	
授業の目的・概要	将来、地域医療の先頭に立って地域の患者の健康に寄与できる人材を育成する。
【医】授業の到達目標_1	地域医療に関わる他職種の役割と他職種連携を理解する。
【医】ディプロマポリシーとの対応1	7.多職種と協調したチーム医療の意義を理解し地域医療に貢献できる能力を備えている。
【医】授業の到達目標_2	
【医】ディプロマポリシーとの対応2	
【医】授業の到達目標_3	
【医】ディプロマポリシーとの対応3	
【医】授業の到達目標_4	
【医】ディプロマポリシーとの対応4	
【医】授業の到達目標_5	
【医】ディプロマポリシーとの対応5	
【医】授業の到達目標_6	
【医】ディプロマポリシーとの対応6	
【医】授業の到達目標_7	
【医】ディプロマポリシーとの対応7	
【医】授業の到達目標_8	
【医】ディプロマポリシーとの対応8	
【医】授業の到達目標_9	
【医】ディプロマポリシーとの対応9	
【医】授業の到達目標_10	
【医】ディプロマポリシーとの対応10	
授業の進め方と方法	国内の地域医療の特徴をPBL、小グループ討議（SGD）を通して理解する。
ICT活用	e自主自学を利用した資料の提示とポートフォリオへのレポート掲示
予習時間	30～60分
予習内容	講義に向けた予習課題内容の検索・学習とレポート作成
復習時間	30～60分
復習内容	SGDの内容をまとめ、提出用レポートを作成しポートフォリオへ提出
評価の方法と内訳（%）	授業への出席（60%）とSGDの評価表（40%）
最終評価点	授業への参加状況（出席・SGDへの参加内容）を評価対象とする。
合格点	80%以上の出席が評価条件、評価表60点以上で単位認定とする。
筆記試験の形式	なし
再試験・対象者	評価表60点未満の者（最低点の条件なし）
再試験・実施時期	学年終了時の3月末日
再試験・範囲	レポート課題として提示

再試験・難易度	
再試験・方法	レポート提出
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	個別の面談およびポートフォリオ上での記述
履修上の注意等	
【医】 オフィスアワー>担当	野平知良（医学教育学分野）
【医】 教科書	指定なし
【医】 参考書	指定なし
【医】 【第1回】 方式	PBL
【医】 【第1回】 授業内容	地域医療と社会
【医】 【第1回】 到達目標	地域医療に携わる行政の役割を具体的に説明出来る
【医】 【第1回】 キーワード	地域医療、社会システム
【医】 【第1回】 担当者	野平知良（医学教育学分野）
【医】 【第2回】 方式	セミナー参加
【医】 【第2回】 授業内容	修学生サマーセミナー1
【医】 【第2回】 到達目標	自分の地域の自治体の取り組みを説明出来る
【医】 【第2回】 キーワード	地域医療、社会システム
【医】 【第2回】 担当者	野平知良（医学教育学分野）
【医】 【第3回】 方式	セミナー参加
【医】 【第3回】 授業内容	修学生サマーセミナー2
【医】 【第3回】 到達目標	自分の地域の自治体の取り組みを説明出来る
【医】 【第3回】 キーワード	地域医療、社会システム
【医】 【第3回】 担当者	野平知良（医学教育学分野）
【医】 【第4回】 方式	SGD
【医】 【第4回】 授業内容	修学生の集い1
【医】 【第4回】 到達目標	自らの医療圏の社会的問題点を説明出来る
【医】 【第4回】 キーワード	人的要因、自治体、社会状況
【医】 【第4回】 担当者	野平知良（医学教育学分野）
【医】 【第5回】 方式	SGD
【医】 【第5回】 授業内容	修学生の集い2
【医】 【第5回】 到達目標	自らの医療圏の社会的問題点を説明出来る
【医】 【第5回】 キーワード	人的要因、自治体、社会状況
【医】 【第5回】 担当者	野平知良（医学教育学分野）
【医】 【第6回】 方式	セミナー参加
【医】 【第6回】 授業内容	修学生スプリングセミナー1
【医】 【第6回】 到達目標	自らの医療圏の地域医療の多職種連携を説明出来る
【医】 【第6回】 キーワード	地域医療システムを構成する人的要素
【医】 【第6回】 担当者	野平知良（医学教育学分野）
【医】 【第7回】 方式	セミナー参加
【医】 【第7回】 授業内容	修学生スプリングセミナー2
【医】 【第7回】 到達目標	自らの医療圏の地域医療の多職種連携を説明出来る
【医】 【第7回】 キーワード	地域医療システムを構成する人的要素
【医】 【第7回】 担当者	野平知良（医学教育学分野）
【医】 【第8回】 方式	PBL,SGD
【医】 【第8回】 授業内容	地域における他職種連携のまとめ
【医】 【第8回】 到達目標	地域医療に携わる他職種の役割を具体的に説明出来る
【医】 【第8回】 キーワード	地域社会と地域医療
【医】 【第8回】 担当者	野平知良（医学教育学分野）

年度	2022
授業コード	
科目名	地域医療リーダーズコース3
年度	2022年度
学年	3年
開講学期	後期
科目ナンバリング	12006
必修/選択	選択
授業形態	講義、実習
単位数	0.5単位
時間数	
科目責任者	
科目担当者	野平知良
実務経験のある教員等による授業科目（計上状況）	
授業の目的・概要	将来、地域医療の先頭に立って地域の患者の健康に寄与できる人材を育成する。
【医】授業の到達目標_1	地域医療に関わる他職種の役割と他職種連携を理解する。
【医】ディプロマポリシーとの対応1	7.多職種と協調したチーム医療の意義を理解し地域医療に貢献できる能力を備えている。
【医】授業の到達目標_2	地域医療に関わる他職種の役割と他職種連携を理解する。
【医】ディプロマポリシーとの対応2	1.礼儀と礼節を備え、経緯と思いやりの心を持って他人と接することができる。
【医】授業の到達目標_3	
【医】ディプロマポリシーとの対応3	
【医】授業の到達目標_4	
【医】ディプロマポリシーとの対応4	
【医】授業の到達目標_5	
【医】ディプロマポリシーとの対応5	
【医】授業の到達目標_6	
【医】ディプロマポリシーとの対応6	
【医】授業の到達目標_7	
【医】ディプロマポリシーとの対応7	
【医】授業の到達目標_8	
【医】ディプロマポリシーとの対応8	
【医】授業の到達目標_9	
【医】ディプロマポリシーとの対応9	
【医】授業の到達目標_10	
【医】ディプロマポリシーとの対応10	
授業の進め方と方法	診療所、地域中核病院における医療現場を経験する。
ICT活用	e自主自学を利用した資料の提示と実習記録のポートフォリオへの提出
予習時間	30～60分
予習内容	講義に向けた予習課題内容の検索・学習とレポート作成
復習時間	30～60分
復習内容	実習の内容をまとめ、提出用レポートを作成しポートフォリオへ提出
評価の方法と内訳（%）	授業への出席（60%）とSGDの評価表（40%）
最終評価点	授業への参加状況（出席・SGDへの参加内容）を評価対象とする。
合格点	80%以上の出席が評価条件、評価表60点以上で単位認定とする。
筆記試験の形式	なし
再試験・対象者	評価表60点未満の者（最低点の条件なし）
再試験・実施時期	学年終了時の3月末日
再試験・範囲	レポート課題として提示

再試験・難易度	
再試験・方法	レポート提出
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	個別の面談およびポートフォリオ上での記述
履修上の注意等	
【医】 オフィスアワー→担当	野平知良（医学教育学分野）
【医】 教科書	指定なし
【医】 参考書	指定なし
【医】 【第1回】 方式	セミナー参加
【医】 【第1回】 授業内容	修学生サマーセミナー1
【医】 【第1回】 到達目標	地域医療における病診連携を説明できる
【医】 【第1回】 キーワード	病診連携
【医】 【第1回】 担当者	野平知良（医学教育学分野）
【医】 【第2回】 方式	セミナー参加
【医】 【第2回】 授業内容	修学生サマーセミナー2
【医】 【第2回】 到達目標	地域医療における病診連携を説明できる
【医】 【第2回】 キーワード	病診連携
【医】 【第2回】 担当者	野平知良（医学教育学分野）
【医】 【第3回】 方式	臨床実習
【医】 【第3回】 授業内容	地域枠実習（診療所）
【医】 【第3回】 到達目標	地域における一次医療施設の役割を説明出来る
【医】 【第3回】 キーワード	地域医療、社会システム。持続可能な地域医療機関
【医】 【第3回】 担当者	野平知良（医学教育学分野）
【医】 【第4回】 方式	臨床実習
【医】 【第4回】 授業内容	地域枠実習（中核病院）
【医】 【第4回】 到達目標	地域における二次・三次医療施設の役割を説明出来る
【医】 【第4回】 キーワード	地域医療、社会システム、医療の集約化
【医】 【第4回】 担当者	野平知良（医学教育学分野）
【医】 【第5回】 方式	SGD
【医】 【第5回】 授業内容	修学生の集い1
【医】 【第5回】 到達目標	他の医学生と連携することができる
【医】 【第5回】 キーワード	医療ネットワーク、医療マネジメント
【医】 【第5回】 担当者	野平知良（医学教育学分野）
【医】 【第6回】 方式	SGD
【医】 【第6回】 授業内容	学生の集い2
【医】 【第6回】 到達目標	他の医学生と連携することができる
【医】 【第6回】 キーワード	医療ネットワーク、医療マネジメント
【医】 【第6回】 担当者	野平知良（医学教育学分野）
【医】 【第7回】 方式	セミナー参加
【医】 【第7回】 授業内容	修学生スプリングセミナー1
【医】 【第7回】 到達目標	自らの医療圏内での病診連携を構築出来る
【医】 【第7回】 キーワード	外来・入院・在宅
【医】 【第7回】 担当者	野平知良（医学教育学分野）
【医】 【第8回】 方式	セミナー参加
【医】 【第8回】 授業内容	修学生スプリングセミナー2
【医】 【第8回】 到達目標	自らの医療圏内での病診連携を構築出来る
【医】 【第8回】 キーワード	外来・入院・在宅
【医】 【第8回】 担当者	野平知良（医学教育学分野）

年度	2022
授業コード	
科目名	地域医療リーダーズコース4
年度	2022年度
学年	4年
開講学期	後期
科目ナンバリング	
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	0.5単位
時間数	
科目責任者	
科目担当者	野平知良
実務経験のある教員等による授業科目（計上状況）	
授業の目的・概要	将来、地域医療の先頭に立って地域の患者の健康に寄与できる人材を育成する。
【医】授業の到達目標_1	地域医療に関わる他職種の役割と他職種連携を理解する。
【医】ディプロマポリシーとの対応1	7.多職種と協調したチーム医療の意義を理解し地域医療に貢献できる能力を備えている。
【医】授業の到達目標_2	
【医】ディプロマポリシーとの対応2	
【医】授業の到達目標_3	
【医】ディプロマポリシーとの対応3	
【医】授業の到達目標_4	
【医】ディプロマポリシーとの対応4	
【医】授業の到達目標_5	
【医】ディプロマポリシーとの対応5	
【医】授業の到達目標_6	
【医】ディプロマポリシーとの対応6	
【医】授業の到達目標_7	
【医】ディプロマポリシーとの対応7	
【医】授業の到達目標_8	
【医】ディプロマポリシーとの対応8	
【医】授業の到達目標_9	
【医】ディプロマポリシーとの対応9	
【医】授業の到達目標_10	
【医】ディプロマポリシーとの対応10	
授業の進め方と方法	国内の地域医療の特徴をPBL、小グループ討議（SGD）を通して理解する。
ICT活用	e自主自学を利用した資料の提示とポートフォリオへのレポート掲示
予習時間	30～60分
予習内容	講義に向けた予習課題内容の検索・学習とレポート作成
復習時間	30～60分
復習内容	SGDの内容をまとめ、提出用レポートを作成しポートフォリオへ提出
評価の方法と内訳（%）	授業への出席（60%）とSGDの評価表（40%）
最終評価点	授業への参加状況（出席・SGDへの参加内容）を評価対象とする。
合格点	80%以上の出席が評価条件、評価表60点以上で単位認定とする。
筆記試験の形式	なし
再試験・対象者	評価表60点未満の者（最低点の条件なし）
再試験・実施時期	学年終了時の3月末日
再試験・範囲	レポート課題として提示

再試験・難易度	
再試験・方法	レポート提出
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	個別の面談およびポートフォリオ上での記述
履修上の注意等	
【医】 オフィスアワー>担当	野平知良（医学教育学分野）
【医】 教科書	指定なし
【医】 参考書	指定なし
【医】 【第1回】 方式	PBL
【医】 【第1回】 授業内容	地域医療と社会
【医】 【第1回】 到達目標	地域医療に携わる行政の役割を具体的に説明出来る
【医】 【第1回】 キーワード	地域医療、社会システム
【医】 【第1回】 担当者	野平知良（医学教育学分野）
【医】 【第2回】 方式	セミナー参加
【医】 【第2回】 授業内容	修学生サマーセミナー1
【医】 【第2回】 到達目標	自分の地域の自治体の取り組みを説明出来る
【医】 【第2回】 キーワード	地域医療、社会システム
【医】 【第2回】 担当者	野平知良（医学教育学分野）
【医】 【第3回】 方式	セミナー参加
【医】 【第3回】 授業内容	修学生サマーセミナー2
【医】 【第3回】 到達目標	自分の地域の自治体の取り組みを説明出来る
【医】 【第3回】 キーワード	地域医療、社会システム
【医】 【第3回】 担当者	野平知良（医学教育学分野）
【医】 【第4回】 方式	SGD
【医】 【第4回】 授業内容	修学生の集い1
【医】 【第4回】 到達目標	自らの医療圏の社会的問題点を説明出来る
【医】 【第4回】 キーワード	人的要因、自治体、社会状況
【医】 【第4回】 担当者	野平知良（医学教育学分野）
【医】 【第5回】 方式	SGD
【医】 【第5回】 授業内容	修学生の集い2
【医】 【第5回】 到達目標	自らの医療圏の社会的問題点を説明出来る
【医】 【第5回】 キーワード	人的要因、自治体、社会状況
【医】 【第5回】 担当者	野平知良（医学教育学分野）
【医】 【第6回】 方式	セミナー参加
【医】 【第6回】 授業内容	修学生スプリングセミナー1
【医】 【第6回】 到達目標	自らの医療圏の地域医療の多職種連携を説明出来る
【医】 【第6回】 キーワード	地域医療システムを構成する人的要素
【医】 【第6回】 担当者	野平知良（医学教育学分野）
【医】 【第7回】 方式	セミナー参加
【医】 【第7回】 授業内容	修学生スプリングセミナー2
【医】 【第7回】 到達目標	自らの医療圏の地域医療の多職種連携を説明出来る
【医】 【第7回】 キーワード	地域医療システムを構成する人的要素
【医】 【第7回】 担当者	野平知良（医学教育学分野）
【医】 【第8回】 方式	PBL,SGD
【医】 【第8回】 授業内容	地域における他職種連携のまとめ
【医】 【第8回】 到達目標	地域医療に携わる他職種の役割を具体的に説明出来る
【医】 【第8回】 キーワード	地域社会と地域医療
【医】 【第8回】 担当者	野平知良（医学教育学分野）

年度	2022
授業コード	
科目名	地域医療リーダーズコース5
年度	2022年度
学年	5年
開講学期	後期
科目ナンバリング	13008
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	0.5単位
時間数	
科目責任者	
科目担当者	野平知良
実務経験のある教員等による授業科目（計上状況）	
授業の目的・概要	将来、地域医療の先頭に立って地域の患者の健康に寄与できる人材を育成する。
【医】授業の到達目標_1	地域医療に関わる他職種の役割と他職種連携を理解する。
【医】ディプロマポリシーとの対応1	7.多職種と協調したチーム医療の意義を理解し地域医療に貢献できる能力を備えている。
【医】授業の到達目標_2	
【医】ディプロマポリシーとの対応2	
【医】授業の到達目標_3	
【医】ディプロマポリシーとの対応3	
【医】授業の到達目標_4	
【医】ディプロマポリシーとの対応4	
【医】授業の到達目標_5	
【医】ディプロマポリシーとの対応5	
【医】授業の到達目標_6	
【医】ディプロマポリシーとの対応6	
【医】授業の到達目標_7	
【医】ディプロマポリシーとの対応7	
【医】授業の到達目標_8	
【医】ディプロマポリシーとの対応8	
【医】授業の到達目標_9	
【医】ディプロマポリシーとの対応9	
【医】授業の到達目標_10	
【医】ディプロマポリシーとの対応10	
授業の進め方と方法	今後の自分の地域医療への関わりを意識する。
ICT活用	e自主自学を利用した資料の提示とポートフォリオへのレポート提示
予習時間	30～60分
予習内容	講義に向けた予習課題内容の検索・学習とレポート作成
復習時間	30～60分
復習内容	SGDの内容をまとめ、提出用レポートを作成しポートフォリオへ提出
評価の方法と内訳（%）	授業への出席（60%）とSGDの評価表（40%）
最終評価点	授業への参加状況（出席・SGDへの参加内容）を評価対象とする。
合格点	80%以上の出席が評価条件、評価表60点以上で単位認定とする。
筆記試験の形式	なし
再試験・対象者	評価表60点未満の者（最低点の条件なし）
再試験・実施時期	学年終了時の3月末日
再試験・範囲	レポート課題として提示

再試験・難易度	
再試験・方法	レポート提出
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	個別の面談およびポートフォリオ上での記述
履修上の注意等	
【医】 オフィスアワー>担当	野平知良（医学教育学分野）
【医】 教科書	指定なし
【医】 参考書	指定なし
【医】 【第1回】 方式	セミナー参加
【医】 【第1回】 授業内容	修学生サマーセミナー1
【医】 【第1回】 到達目標	これからの地域医療に必要な視点を説明できる
【医】 【第1回】 キーワード	今後の地域医療
【医】 【第1回】 担当者	野平知良（医学教育学分野）
【医】 【第2回】 方式	セミナー参加
【医】 【第2回】 授業内容	修学生サマーセミナー2
【医】 【第2回】 到達目標	これからの地域医療に必要な視点を説明できる
【医】 【第2回】 キーワード	今後の地域医療
【医】 【第2回】 担当者	野平知良（医学教育学分野）
【医】 【第3回】 方式	セミナー参加
【医】 【第3回】 授業内容	修学生の集い1
【医】 【第3回】 到達目標	地域医療における自分のキャリア・パスを説明できる
【医】 【第3回】 キーワード	キャリア・パス
【医】 【第3回】 担当者	野平知良（医学教育学分野）
【医】 【第4回】 方式	SGD
【医】 【第4回】 授業内容	修学生の集い2
【医】 【第4回】 到達目標	地域医療における自分のキャリア・パスを説明できる
【医】 【第4回】 キーワード	キャリア・パス
【医】 【第4回】 担当者	野平知良（医学教育学分野）
【医】 【第5回】 方式	PBL
【医】 【第5回】 授業内容	地域医療における問題の抽出
【医】 【第5回】 到達目標	自らの医療圏の問題点解決のための住民へのアプローチを立案できる
【医】 【第5回】 キーワード	保健活動、健康増進、福祉活動
【医】 【第5回】 担当者	野平知良（医学教育学分野）
【医】 【第6回】 方式	PBL
【医】 【第6回】 授業内容	地域医療における問題解決のための具体的アプローチ
【医】 【第6回】 到達目標	自らの医療圏の問題点解決のための住民へのアプローチを立案できる
【医】 【第6回】 キーワード	地域医療システムを構成する人的要素
【医】 【第6回】 担当者	野平知良（医学教育学分野）
【医】 【第7回】 方式	PBL
【医】 【第7回】 授業内容	修学生スプリングセミナー1
【医】 【第7回】 到達目標	地域医療における今後の自分の関わりを具体的に説明できる
【医】 【第7回】 キーワード	地域住民との関わり
【医】 【第7回】 担当者	野平知良（医学教育学分野）
【医】 【第8回】 方式	PBL
【医】 【第8回】 授業内容	修学生スプリングセミナー2
【医】 【第8回】 到達目標	地域医療における今後の自分の関わりを具体的に説明できる
【医】 【第8回】 キーワード	地域住民との関わり
【医】 【第8回】 担当者	野平知良（医学教育学分野）

年度	2022
授業コード	
科目名	リサーチ・コース1
年度	2022年度
学年	1年・2年
開講学期	通期
科目ナンバリング	11009
必修/選択	自由
授業形態	演習
単位数	0.5単位
時間数	16時間
科目責任者	黒田雅彦（分子病理学）
科目担当者	・伊藤正裕（人体構造学）・高橋宗春（組織・神経解剖学）・長尾俊孝（人体病理学）・黒田雅彦（分子病理学）・中村茂樹（微生物学）・横山詩子（細胞生理学）・林由起子（病態生理学）・宮澤啓介（生化学）・松岡正明（薬理学）・横須賀忠（免疫学）・井上茂（公衆衛生学）・濱岡隆文（健康増進スポーツ医学）
実務経験のある教員等による授業科目（計上状況）	
授業の目的・概要	将来、臨床科目を学習し医師として働く上で、基礎医学の知識を理解し、メカニズムと病態と関連させながら考える思考過程「リサーチマインド」を養うことは、とても大切です。本自由選択コースは、配属になった各研究室で与えられる研究課題に関して、実験を計画し、実施し、考察することで新しい自然現象の何かを発見する過程を、実地の演習から学ぶコースです。研究課題に必要な情報をインターネット上のデータベースから検索、英語論文を解読するために必要な専門用語を理解し、研究課題に関する基本的な理論と方法論を学習、目標として立てた仮説に基づき実験計画を立案し、実施、得られたデータを解析し、また研究室内のディスカッションを通して解釈し、オーラルプレゼンテーションや論文によって「世界初の概念を発信する」ことを目標としています。一方概念の創出には多大な努力と時間が必要です。年間の時間数は8コマに設定してありますが、実験の進行状況や学生本人の意志で授業時間数の上限はありませんので、科目担当者との相談の上、各自で設定します。また、入学後のいつから基礎研究に関する興味が湧いてくるかは個人差がありますし、また体験だけしたいという希望にも対応するため、コースの参加は1～5年時のいつからでも構いませんし、その間の中断や研究室移動も可能です。是非、リサーチャーとして研究の楽しさと醍醐味を体感してください。
【医】授業の到達目標_1	病態に関連する基礎医学の知識を理解し、それらの関連性を説明できる。
【医】ディプロマポリシーとの対応1	4・①・C
【医】授業の到達目標_2	研究課題を遂行する過程で生まれた新たな問題を抽出することができる。
【医】ディプロマポリシーとの対応2	5・①・C
【医】授業の到達目標_3	研究マインドを体得できる。
【医】ディプロマポリシーとの対応3	5・⑥・C
【医】授業の到達目標_4	インターネット上のデータベースから研究課題に必要な情報を検索できる。
【医】ディプロマポリシーとの対応4	6・②・C
【医】授業の到達目標_5	自らの研究課題に関する英語の専門用語を理解することができる。
【医】ディプロマポリシーとの対応5	9・③・C
【医】授業の到達目標_6	研究課題に関する基本的な理論と方法論を説明できる。
【医】ディプロマポリシーとの対応6	10・①・C
【医】授業の到達目標_7	医学研究に関する倫理を理解し説明できる。
【医】ディプロマポリシーとの対応7	10・②・C
【医】授業の到達目標_8	研究課題に関する論文を読み理解することができる。
【医】ディプロマポリシーとの対応8	10・③・C
【医】授業の到達目標_9	
【医】ディプロマポリシーとの対応9	
【医】授業の到達目標_10	
【医】ディプロマポリシーとの対応10	
授業の進め方と方法	・研究室に通い、実験を行う現場の雰囲気になれる。▼・研究室のルーティンワークに参加し、研究の基礎知識を習得する。▼・オンライン上のさまざまなデータベースにアクセスし、取扱いを習得する。▼・担当指導教員に付き沿い、シャドーイングにて実験手技を理解する。

ICT活用	Web上のデータベースから目的とする情報を検索し自分の研究に応用することができる。
予習時間	30分
予習内容	研究課題に関する英語論文を読み、研究の全体の流れを把握しておく。▼実験手技に関するプロトコールを理解し実技に備える。
復習時間	30分
復習内容	毎回の実験結果をまとめ、考察と共に実験ノートにまとめる。▼当日の実験結果から次回の実験や今後の研究の構想を実験ノートに記載する。
評価の方法と内訳 (%)	・3分の2以上出席した者に対し、各演習の目的の達成度で評価する。特に、自分の研究テーマに活用できる実験スキルを習得できたか、の視点から評価する。▼・欠席した授業は自主自学の時間や放課後に任意で代講を可能とする。
最終評価点	授業評価 (出席点50%) + 実習評価 (実験ノートの提出25% + 研究発表25%)
合格点	出席2/3以上かつ最終評価60%以上
筆記試験の形式	なし
課題 (試験・レポート等) に対するフィードバックの方法	毎回の実験ノートは担当指導教官に評価・補完され、次の実験に向けたアドバイスを受ける機会がある。
履修上の注意等	日程は授業 (実習) の進行により常時変更しながら進めるため、各科目担当者の指示に従い相談の上で決定する。▼研究室や研究内容が希望したものでなかった、また不適合を感じたなどの場合は、リサーチコース1の履修期間内に所属分野を変更することもできる。▼成績優秀者は、リサーチコース1を履修中にリサーチコース2の内容を学習することもできる。
【医】 オフィスアワー>担当	基本的にいつでも来室、メール、電話可能 大学キャンパスもしくは大学病院▼注) 各研究室の場所、連絡先電話番号、メールアドレスは総合事務センターもしくは各科目担当者に問い合わせの上で確認
【医】 教科書	各研究室に問い合わせの上で確認
【医】 参考書	各研究室に問い合わせの上で確認
【医】 【第1回】 方式	実習
【医】 【第1回】 授業内容	ラボミーティング
【医】 【第1回】 到達目標	研究室の雰囲気に慣れ、研究マインドを体得できる。
【医】 【第1回】 キーワード	研究生生活
【医】 【第1回】 担当者	各科目担当者
【医】 【第2回】 方式	実習
【医】 【第2回】 授業内容	ジャーナルクラブ (抄読会)
【医】 【第2回】 到達目標	研究課題に関する論文を読み理解することができる。
【医】 【第2回】 キーワード	英語論文読解
【医】 【第2回】 担当者	各科目担当者
【医】 【第3回】 方式	実習
【医】 【第3回】 授業内容	プログレスレポート
【医】 【第3回】 到達目標	研究室内の教員の研究内容を理解し、研究の基本的な理論と方法論を説明できる。
【医】 【第3回】 キーワード	研究発表
【医】 【第3回】 担当者	各科目担当者
【医】 【第4回】 方式	実習
【医】 【第4回】 授業内容	データベース検索
【医】 【第4回】 到達目標	インターネット上のデータベースから研究課題に必要な情報を検索できる。
【医】 【第4回】 キーワード	データ検索
【医】 【第4回】 担当者	各科目担当者
【医】 【第5回】 方式	実習
【医】 【第5回】 授業内容	実験手技のシャドーイング
【医】 【第5回】 到達目標	実験計画を理解し、指導担当者の手技を真似ることができる。
【医】 【第5回】 キーワード	研究手技
【医】 【第5回】 担当者	各科目担当者
【医】 【第6回】 方式	実習
【医】 【第6回】 授業内容	実験手技のシャドーイング
【医】 【第6回】 到達目標	実験計画を理解し、指導担当者の手技を真似ることができる。
【医】 【第6回】 キーワード	研究手技
【医】 【第6回】 担当者	各科目担当者

【医】【第7回】方式	実習
【医】【第7回】授業内容	実験手技のシャドーイング
【医】【第7回】到達目標	実験計画を理解し、指導担当者の手技を真似ることができる。
【医】【第7回】キーワード	研究手技
【医】【第7回】担当者	各科目担当者
【医】【第8回】方式	実習
【医】【第8回】授業内容	実験手技のシャドーイング
【医】【第8回】到達目標	実験計画を理解し、指導担当者の手技を真似ることができる。
【医】【第8回】キーワード	研究手技
【医】【第8回】担当者	各科目担当者

年度	2022
授業コード	
科目名	リサーチ・コース2
年度	2022年度
学年	2年・3年
開講学期	通期
科目ナンバリング	12010
必修/選択	自由
授業形態	演習
単位数	0.5単位
時間数	16時間
科目責任者	黒田雅彦（分子病理学）
科目担当者	・伊藤正裕（人体構造学）・高橋宗春（組織・神経解剖学）・長尾俊孝（人体病理学）・黒田雅彦（分子病理学）・中村茂樹（微生物学）・横山詩子（細胞生理学）・林由起子（病態生理学）・宮澤啓介（生化学）・松岡正明（薬理学）・横須賀忠（免疫学）・井上茂（公衆衛生学）・濱岡隆文（健康増進スポーツ医学）
実務経験のある教員等による授業科目（計上状況）	
授業の目的・概要	将来、臨床科目を学習し医師として働く上で、基礎医学の知識を理解し、メカニズムと病態と関連させながら考える思考過程「リサーチマインド」を養うことは、とても大切です。本自由選択コースは、配属になった各研究室で与えられる研究課題に関して、実験を計画し、実施し、考察することで新しい自然現象の何かを発見する過程を、実地の演習から学ぶコースです。研究課題に必要な情報をインターネット上のデータベースから検索、英語論文を解説するに必要な専門用語を理解し、研究課題に関する基本的な理論と方法論を学習、目標として立てた仮説に基づき実験計画を立案し、実施、得られたデータを解析し、また研究室でのディスカッションを通して解釈し、オーラルプレゼンテーションや論文によって「世界初の概念を発信する」ことを目標としています。一方概念の創出には多大な努力と時間が必要です。年間の時間数は8コマに設定してありますが、実験の進行状況や学生本人の意志で授業時間数の上限はありませんので、科目担当者との相談の上、各自で設定します。また、入学後のいつから基礎研究に関する興味が湧いてくるかは個人差がありますし、また体験だけしたいという希望にも対応するため、コースの参加は1～5年時のいつからでも構いませんし、その間の中断や研究室移動も可能です。是非、リサーチャーとして研究の楽しさと醍醐味を体感してください。
【医】授業の到達目標_1	病態に関連する基礎医学の知識を理解し、それらの関連性を説明できる。
【医】ディプロマポリシーとの対応1	4・①・C
【医】授業の到達目標_2	研究課題を遂行する過程で生まれた新たな問題を抽出することができる。
【医】ディプロマポリシーとの対応2	5・①・C
【医】授業の到達目標_3	研究マインドを体得できる。
【医】ディプロマポリシーとの対応3	5・⑥・C
【医】授業の到達目標_4	インターネット上のデータベースから研究課題に必要な情報を検索できる。
【医】ディプロマポリシーとの対応4	6・②・C
【医】授業の到達目標_5	自らの研究課題に関する英語の専門用語を理解することができる。
【医】ディプロマポリシーとの対応5	9・③・C
【医】授業の到達目標_6	研究課題に関する基本的な理論と方法論を説明し、実施できる。
【医】ディプロマポリシーとの対応6	10・①・B
【医】授業の到達目標_7	医学研究の実習実験に関する倫理を理解し実施できる。
【医】ディプロマポリシーとの対応7	10・②・B
【医】授業の到達目標_8	研究課題に関する論文を読み理解することができる。
【医】ディプロマポリシーとの対応8	10・③・C
【医】授業の到達目標_9	与えられた研究課題に関して仮説に基づいた実習実験計画を実施することができる。
【医】ディプロマポリシーとの対応9	10・④・B

【医】授業の到達目標_10	計画し実施した実験結果を理解し、第三者にその内容を説明できる。
【医】ディプロマポリシーとの対応10	10・⑤・C
授業の進め方と方法	・研究室のルーティンワークに参加し、研究の基礎知識を習得する。▼・オンライン上のさまざまなデータベースにアクセスし、取扱いを習得する。▼・実験プロトコルを理解し、簡単な実験を実施する。
ICT活用	Web上のデータバンクから目的とする情報を検索し自分の研究に応用することができる。
予習時間	30分
予習内容	研究課題に関する英語論文を読み、研究の全体の流れを把握しておく。▼実験手技に関するプロトコルを理解し実技に備える。
復習時間	30分
復習内容	毎回の実験結果をまとめ、考察と共に実験ノートにまとめる。▼当日の実験結果から次回の実験や今後の研究の構想を実験ノートに記載する。
評価の方法と内訳 (%)	・3分の2以上出席した者に対し、各演習の目的の達成度で評価する。特に、自分の研究テーマに活用できる実験スキルを習得できたか、の視点から評価する。▼・欠席した授業は自主自学の時間や放課後に任意で代講を可能とする。
最終評価点	授業評価（出席点50%）+実習評価（実験ノートの提出25%+研究発表25%）
合格点	出席2/3以上かつ最終評価60%以上
筆記試験の形式	なし
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	毎回の実験ノートは担当指導教官に評価・補完され、次の実験に向けたアドバイスを受ける機会がある。
履修上の注意等	日程は授業（実習）の進行により常時変更しながら進めるため、各科目担当者の指示に従い相談の上で決定する。▼研究室や研究内容が希望したものでなかった、また不適合を感じたなどの場合は、リサーチコース1の履修期間内に所属分野を変更することもできる。▼成績優秀者は、リサーチコース1を履修中にリサーチコース2の内容を学習することもできる。
【医】オフィスアワー→担当	基本的にいつでも来室、メール、電話可能 大学キャンパスもしくは大学病院▼注）各研究室の場所、連絡先電話番号、メールアドレスは総合事務センターもしくは各科目担当者に問い合わせの上で確認
【医】教科書	各研究室に問い合わせの上で確認
【医】参考書	各研究室に問い合わせの上で確認
【医】【第1回】方式	実習
【医】【第1回】授業内容	ラボミーティング
【医】【第1回】到達目標	研究室の雰囲気慣れ、研究マインドを体得できる。
【医】【第1回】キーワード	研究生活
【医】【第1回】担当者	各科目担当者
【医】【第2回】方式	実習
【医】【第2回】授業内容	ジャーナルクラブ（抄読会）
【医】【第2回】到達目標	研究課題に関する論文を読み理解することができる。
【医】【第2回】キーワード	英語論文読解
【医】【第2回】担当者	各科目担当者
【医】【第3回】方式	実習
【医】【第3回】授業内容	プログレスレポート
【医】【第3回】到達目標	研究室内の教員の研究内容を理解し、研究の基本的な理論と方法論を説明できる。
【医】【第3回】キーワード	研究発表
【医】【第3回】担当者	各科目担当者
【医】【第4回】方式	実習
【医】【第4回】授業内容	データベース検索
【医】【第4回】到達目標	インターネット上のデータベースから研究課題に必要な情報を検索できる。
【医】【第4回】キーワード	データ検索
【医】【第4回】担当者	各科目担当者
【医】【第5回】方式	実習

【医】【第5回】授業内容	基本的実験手技の実施
【医】【第5回】到達目標	基本的な理論と方法論を理解し、自身で計画した実験を主導的に遂行することができる。
【医】【第5回】キーワード	研究手技
【医】【第5回】担当者	各科目担当者
【医】【第6回】方式	実習
【医】【第6回】授業内容	基本的実験手技の実施
【医】【第6回】到達目標	基本的な理論と方法論を理解し、自身で計画した実験を主導的に遂行することができる。
【医】【第6回】キーワード	研究手技
【医】【第6回】担当者	各科目担当者
【医】【第7回】方式	実習
【医】【第7回】授業内容	基本的実験手技の実施
【医】【第7回】到達目標	基本的な理論と方法論を理解し、自身で計画した実験を主導的に遂行することができる。
【医】【第7回】キーワード	研究手技
【医】【第7回】担当者	各科目担当者
【医】【第8回】方式	実習
【医】【第8回】授業内容	基本的実験手技の実施
【医】【第8回】到達目標	基本的な理論と方法論を理解し、自身で計画した実験を主導的に遂行することができる。
【医】【第8回】キーワード	研究手技
【医】【第8回】担当者	各科目担当者

年度	2022
授業コード	
科目名	リサーチ・コース3
年度	2022年度
学年	3年・4年
開講学期	通期
科目ナンバリング	12011
必修/選択	自由
授業形態	演習
単位数	0.5単位
時間数	16時間
科目責任者	黒田雅彦（分子病理学）
科目担当者	・伊藤正裕（人体構造学）・高橋宗春（組織・神経解剖学）・長尾俊孝（人体病理学）・黒田雅彦（分子病理学）・中村茂樹（微生物学）・横山詩子（細胞生理学）・林由起子（病態生理学）・宮澤啓介（生化学）・松岡正明（薬理学）・横須賀忠（免疫学）・井上茂（公衆衛生学）・濱岡隆文（健康増進スポーツ医学）
実務経験のある教員等による授業科目（計上状況）	
授業の目的・概要	将来、臨床科目を学習し医師として働く上で、基礎医学の知識を理解し、メカニズムと病態と関連させながら考える思考過程「リサーチマインド」を養うことは、とても大切です。本自由選択コースは、配属になった各研究室で与えられる研究課題に関して、実験を計画し、実施し、考察することで新しい自然現象の何かを発見する過程を、実地の演習から学ぶコースです。研究課題に必要な情報をインターネット上のデータベースから検索、英語論文を解読するに必要な専門用語を理解し、研究課題に関する基本的な理論と方法論を学習、目標として立てた仮説に基づき実験計画を立案し、実施、得られたデータを解析し、また研究室でのディスカッションを通して解釈し、オーラルプレゼンテーションや論文によって「世界初の概念を発信する」ことを目標としています。一方概念の創出には多大な努力と時間が必要です。年間の時間数は8コマに設定してありますが、実験の進行状況や学生本人の意志で授業時間数の上限はありませんので、科目担当者との相談の上、各自で設定します。また、入学後のいつから基礎研究に関する興味が湧いてくるかは個人差がありますし、また体験だけしたいという希望にも対応するため、コースの参加は1～5年時のいつからでも構いませんし、その間の中断や研究室移動も可能です。是非、リサーチャーとして研究の楽しさと醍醐味を体感してください。
【医】授業の到達目標_1	病態に関連する基礎医学の知識を理解し、それらの関連性を提示できる。
【医】ディプロマポリシーとの対応1	4・①・B
【医】授業の到達目標_2	研究課題を遂行する過程で生まれた新たな問題を抽出し、解決策を見つけることができる。
【医】ディプロマポリシーとの対応2	5・①・B
【医】授業の到達目標_3	実験に自ら積極的に取り組むことができる。
【医】ディプロマポリシーとの対応3	5・⑥・B
【医】授業の到達目標_4	インターネット上のデータベースから研究課題に必要な正しい情報を入手できる。
【医】ディプロマポリシーとの対応4	6・②・B
【医】授業の到達目標_5	自らの研究課題に関する英語の専門用語を理解し発信することができる。
【医】ディプロマポリシーとの対応5	9・③・B
【医】授業の到達目標_6	研究課題に関する基本的な理論と方法論を説明し、実施できる。
【医】ディプロマポリシーとの対応6	10・①・B
【医】授業の到達目標_7	医学研究の実習実験に関する倫理を理解し実施できる。
【医】ディプロマポリシーとの対応7	10・②・B
【医】授業の到達目標_8	研究課題に関する論文を読み理解し、自分の研究に関して問題提起ができる。
【医】ディプロマポリシーとの対応8	10・③・B
【医】授業の到達目標_9	与えられた研究課題に関して仮説に基づいた実験計画を実施することができる。

【医】ディプロマポリシーとの対応9	10・④・A
【医】授業の到達目標_10	計画し実施した実験結果を理解し、第三者にその問題点や次の課題を説明できる。
【医】ディプロマポリシーとの対応10	10・⑤・B
授業の進め方と方法	・研究室に通い、実験を行う現場の雰囲気慣れる。▼・研究室のルーティンワークに参加し、研究の基礎知識を習得する。▼・オンライン上のさまざまなデータベースにアクセスし、取扱いを習得する。▼・実験プロトコルを理解・計画し、実験を実施する。
ICT活用	Web上のデータバンクから目的とする情報を検索し自分の研究に応用することができる。
予習時間	30分
予習内容	研究課題に関する英語論文を読み、研究の全体の流れを把握しておく。▼実験手技に関するプロトコルを理解し実技に備える。
復習時間	30分
復習内容	毎回の実験結果をまとめ、考察と共に実験ノートにまとめる。▼当日の実験結果から次回の実験や今後の研究の構想を実験ノートに記載する。
評価の方法と内訳 (%)	・3分の2以上出席した者に対し、各演習の目的の達成度で評価する。特に、自分の研究テーマに活用できる実験スキルを習得できたか、の視点から評価する。▼・欠席した授業は自主自学の時間や放課後に任意で代講を可能とする。
最終評価点	授業評価（出席点50%）+実習評価（実験ノートの提出25%+研究発表25%）
合格点	出席2/3以上かつ最終評価60%以上
筆記試験の形式	なし
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	毎回の実験ノートは担当指導教官に評価・補完され、次の実験に向けたアドバイスを受ける機会がある。
履修上の注意等	日程は授業（実習）の進行により常時変更しながら進めるため、各科目担当者の指示に従い相談の上で決定する。▼研究室や研究内容が希望したものでなかった、また不適合を感じたなどの場合は、リサーチコース1の履修期間内に所属分野を変更することもできる。▼成績優秀者は、リサーチコース1を履修中にリサーチコース2の内容を学習することもできる。
【医】オフィスアワー→担当	基本的にいつでも来室、メール、電話可能 大学キャンパスもしくは大学病院▼注）各研究室の場所、連絡先電話番号、メールアドレスは総合事務センターもしくは各科目担当者に問い合わせの上で確認
【医】教科書	各研究室に問い合わせの上で確認
【医】参考書	各研究室に問い合わせの上で確認
【医】【第1回】方式	実習
【医】【第1回】授業内容	ラボミーティング
【医】【第1回】到達目標	研究室の雰囲気に慣れ、研究マインドを体得できる。
【医】【第1回】キーワード	研究生活
【医】【第1回】担当者	各科目担当者
【医】【第2回】方式	実習
【医】【第2回】授業内容	ジャーナルクラブ（抄読会）
【医】【第2回】到達目標	研究課題に関する論文を読み理解することができる。
【医】【第2回】キーワード	英語論文読解
【医】【第2回】担当者	各科目担当者
【医】【第3回】方式	実習
【医】【第3回】授業内容	プログレスレポート
【医】【第3回】到達目標	研究室内の教員の研究内容を理解し、研究の基本的な理論と方法論を説明できる。
【医】【第3回】キーワード	研究発表
【医】【第3回】担当者	各科目担当者
【医】【第4回】方式	実習
【医】【第4回】授業内容	基本的実験の計画
【医】【第4回】到達目標	基本的な理論と方法論を理解し、自身の実験を計画することができる。
【医】【第4回】キーワード	研究計画
【医】【第4回】担当者	各科目担当者

【医】【第5回】方式	実習
【医】【第5回】授業内容	基本的実験手技の実施
【医】【第5回】到達目標	基本的な理論と方法論を理解し、自身で計画した実験を主導的に遂行することができる。
【医】【第5回】キーワード	研究手技
【医】【第5回】担当者	各科目担当者
【医】【第6回】方式	実習
【医】【第6回】授業内容	基本的実験手技の実施
【医】【第6回】到達目標	基本的な理論と方法論を理解し、自身で計画した実験を主導的に遂行することができる。
【医】【第6回】キーワード	研究手技
【医】【第6回】担当者	各科目担当者
【医】【第7回】方式	実習
【医】【第7回】授業内容	基本的実験手技の実施
【医】【第7回】到達目標	基本的な理論と方法論を理解し、自身で計画した実験を主導的に遂行することができる。
【医】【第7回】キーワード	研究手技
【医】【第7回】担当者	各科目担当者
【医】【第8回】方式	実習
【医】【第8回】授業内容	基本的実験手技の実施
【医】【第8回】到達目標	基本的な理論と方法論を理解し、自身で計画した実験を主導的に遂行することができる。
【医】【第8回】キーワード	研究手技
【医】【第8回】担当者	各科目担当者

年度	2022
授業コード	
科目名	リサーチ・コース4
年度	2022年度
学年	4年・5年
開講学期	通期
科目ナンバリング	13012
必修/選択	自由
授業形態	演習
単位数	0.5単位
時間数	16時間
科目責任者	黒田雅彦（分子病理学）
科目担当者	・伊藤正裕（人体構造学）・高橋宗春（組織・神経解剖学）・長尾俊孝（人体病理学）・黒田雅彦（分子病理学）・中村茂樹（微生物学）・横山詩子（細胞生理学）・林由起子（病態生理学）・宮澤啓介（生化学）・松岡正明（薬理学）・横須賀忠（免疫学）・井上茂（公衆衛生学）・濱岡隆文（健康増進スポーツ医学）
実務経験のある教員等による授業科目（計上状況）	
授業の目的・概要	将来、臨床科目を学習し医師として働く上で、基礎医学の知識を理解し、メカニズムと病態と関連させながら考える思考過程「リサーチマインド」を養うことは、とても大切です。本自由選択コースは、配属になった各研究室で与えられる研究課題に関して、実験を計画し、実施し、考察することで新しい自然現象の何かを発見する過程を、実地の演習から学ぶコースです。研究課題に必要な情報をインターネット上のデータベースから検索、英語論文を解読するに必要な専門用語を理解し、研究課題に関する基本的な理論と方法論を学習、目標として立てた仮説に基づき実験計画を立案し、実施、得られたデータを解析し、また研究室でのディスカッションを通して解釈し、オーラルプレゼンテーションや論文によって「世界初の概念を発信する」ことを目標としています。一方概念の創出には多大な努力と時間が必要です。年間の時間数は8コマに設定してありますが、実験の進行状況や学生本人の意志で授業時間数の上限はありませんので、科目担当者との相談の上、各自で設定します。また、入学後のいつから基礎研究に関する興味が湧いてくるかは個人差がありますし、また体験だけしたいという希望にも対応するため、コースの参加は1～5年時のいつからでも構いませんし、その間の中断や研究室移動も可能です。是非、リサーチャーとして研究の楽しさと醍醐味を体感してください。
【医】授業の到達目標_1	病態に関連する基礎医学の知識を理解し、それらの関連性を提示できる。
【医】ディプロマポリシーとの対応1	4・①・C
【医】授業の到達目標_2	研究課題を遂行する過程で生まれた新たな問題を抽出・解決し、それを疾患の理解に結び付けることができる。
【医】ディプロマポリシーとの対応2	5・①・A
【医】授業の到達目標_3	研究内容を理解し、発表に関心を示すことができる。
【医】ディプロマポリシーとの対応3	5・⑥・A
【医】授業の到達目標_4	インターネット上のデータベースから研究課題に必要な正しい情報を入手し管理できる。
【医】ディプロマポリシーとの対応4	6・②・A
【医】授業の到達目標_5	自らの研究課題に関して海外の研究者と英語で討論することができる。
【医】ディプロマポリシーとの対応5	9・③・A
【医】授業の到達目標_6	研究課題に関して理論と方法論を理解し、自分の意志で自由に実験を実施できる。
【医】ディプロマポリシーとの対応6	10・①・A
【医】授業の到達目標_7	医学研究に関する倫理を理解し実施できる。
【医】ディプロマポリシーとの対応7	10・②・A
【医】授業の到達目標_8	研究課題に関して問題提起し、さらに解決の工夫が説明できる。
【医】ディプロマポリシーとの対応8	10・③・A
【医】授業の到達目標_9	与えられた研究課題に関して仮説に基づいた実験計画を実施することができる。

【医】ディプロマポリシーとの対応9	10・④・A
【医】授業の到達目標_10	計画し実施した実験結果を口頭や文書で発表し、第三者に納得させることができる。
【医】ディプロマポリシーとの対応10	10・⑤・A
授業の進め方と方法	・研究室に通い、実験を行う現場の雰囲気慣れる。▼・研究室のルーティンワークに参加し、研究の基礎知識を習得する。▼・オンライン上のさまざまなデータベースにアクセスし、取扱いを習得する。▼・担当指導教員に付き合い、シャドーイングにて実験手技を理解する。▼・実験プロトコルを理解・計画し、簡単な実験を実施する。▼・実験結果を考察・討論し結果をまとめる。
ICT活用	Web上のデータバンクから目的とする情報を検索し自分の研究に応用することができる。
予習時間	30分
予習内容	研究課題に関する英語論文を読み、研究の全体の流れを把握しておく。▼実験手技に関するプロトコルを理解し実技に備える。
復習時間	30分
復習内容	毎回の実験結果をまとめ、考察と共に実験ノートにまとめる。▼当日の実験結果から次回の実験や今後の研究の構想を実験ノートに記載する。
評価の方法と内訳 (%)	・3分の2以上出席した者に対し、各演習の目的の達成度で評価する。特に、自分の研究テーマに活用できる実験スキルを習得できたか、の視点から評価する。▼・欠席した授業は自主自学の時間や放課後に任意で代講を可能とする。
最終評価点	授業評価（出席点50%）＋実習評価（実験ノートの提出25%＋研究発表25%）
合格点	出席2/3以上かつ最終評価60%以上
筆記試験の形式	なし
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	毎回の実験ノートは担当指導教官に評価・補完され、次の実験に向けたアドバイスを受ける機会がある。
履修上の注意等	日程は授業（実習）の進行により常時変更しながら進めるため、各科目担当者の指示に従い相談の上で決定する。▼研究室や研究内容が希望したものでなかった、また不適合を感じたなどの場合は、リサーチコース1の履修期間内に所属分野を変更することもできる。▼成績優秀者は、リサーチコース1を履修中にリサーチコース2の内容を学習することもできる。
【医】オフィスアワー>担当	基本的にいつでも来室、メール、電話可能 大学キャンパスもしくは大学病院▼注）各研究室の場所、連絡先電話番号、メールアドレスは総合事務センターもしくは各科目担当者に問い合わせの上で確認
【医】教科書	各研究室に問い合わせの上で確認
【医】参考書	各研究室に問い合わせの上で確認
【医】【第1回】方式	実習
【医】【第1回】授業内容	ラボミーティング
【医】【第1回】到達目標	研究室の雰囲気に慣れ、研究マインドを体得できる。
【医】【第1回】キーワード	研究生活
【医】【第1回】担当者	各科目担当者
【医】【第2回】方式	実習
【医】【第2回】授業内容	ジャーナルクラブ（抄読会）
【医】【第2回】到達目標	研究課題に関する論文を読み理解することができる。
【医】【第2回】キーワード	英語論文読解
【医】【第2回】担当者	各科目担当者
【医】【第3回】方式	実習
【医】【第3回】授業内容	プログレスレポート
【医】【第3回】到達目標	研究室内の教員の研究内容を理解し、研究の基本的な理論と方法論を説明できる。
【医】【第3回】キーワード	研究発表
【医】【第3回】担当者	各科目担当者
【医】【第4回】方式	実習
【医】【第4回】授業内容	基本的実験手技の実施
【医】【第4回】到達目標	基本的な理論と方法論を理解し、自身で計画した実験を主導的に遂行することができる。

【医】【第4回】キーワード	研究手技
【医】【第4回】担当者	各科目担当者
【医】【第5回】方式	実習
【医】【第5回】授業内容	基本的実験手技の実施
【医】【第5回】到達目標	基本的な理論と方法論を理解し、自身で計画した実験を主導的に遂行することができる。
【医】【第5回】キーワード	研究手技
【医】【第5回】担当者	各科目担当者
【医】【第6回】方式	実習
【医】【第6回】授業内容	実験の総括
【医】【第6回】到達目標	計画し実施した実験結果を理解・考察し、その内容を説明することができる。
【医】【第6回】キーワード	研究の総括
【医】【第6回】担当者	各科目担当者
【医】【第7回】方式	実習
【医】【第7回】授業内容	実験の総括
【医】【第7回】到達目標	計画し実施した実験結果を理解・考察し、その内容を説明することができる。
【医】【第7回】キーワード	研究の総括
【医】【第7回】担当者	各科目担当者
【医】【第8回】方式	実習
【医】【第8回】授業内容	実験の総括
【医】【第8回】到達目標	計画し実施した実験結果を理解・考察し、その内容を説明することができる。
【医】【第8回】キーワード	研究の総括
【医】【第8回】担当者	各科目担当者